

令和5年度第1回学校関係者評価委員会報告 評価委員からの質問及び感想・提言等

1 日 時 令和5年6月26日（月）
10：10～11：40

2 場 所 川内高等学校大会議室

3 評価委員による感想・提言等
委員（A）

高校の価値（良さ）とは何かを答えられることが大事である。川内高校といえば「文武両道」が一番の特徴だと思うが、特に学力向上について伸びた結果を具体的に示してほしい。その意味では校舎に前年度の進路実績を掲示しているのは、そばを通る地域の方からも見えるので良い取組だと思う。しかし、高校の価値を一番分かっているのは中学生だから、薩摩川内市の中学生（北・中央・南中など川高から近い中学校だけでも）にアンケートを取ってほしい。川高の魅力や現段階で川高以外の高校（鹿児島市内）を志望している生徒にその志望理由を聞くなどすれば、見えてくるものがあるのではないか。生徒・保護者・地域の方々が川高に一番期待しているのは学力向上であり、将来生計を立てることができるだけの学力を身に付けた生徒を育ててほしい。

委員（B）

(1) スクールバス廃止による通学方法の変化について、単車通学や路線バスの時刻変更の要望など学校として対応を模索されている。16歳以上という年齢制限はあるが、免許が不要な電動キックボードについてはどう対応されているか。

→ 電動キックボードの使用については特に想定していない。

(2) 自転車通学生のヘルメット使用の状況はどうか。広島では自転車と自転車（広島大学生同士）の衝突事故が発生したが、薩摩川内警察署管内でも自動車とバイクによる衝突事故が発生した。ヘルメットをかぶっていれば、脳へのダメージは軽減できる。是非、生徒への指導を徹底していただきたい。

→ 学校として車体検査を行う際等にヘルメット着用を強く推奨しているが、実際の着用率はあまり高くない。しかし、ヘルメット着用が自分の命を守ってくれることを自分事と感ずるように着用指導を強化したい。

(3) 進路決定の際、生徒は友人や身近な人のアドバイスを聞く傾向にあるので、クラスで進路について話し合う機会を設けてほしい。また、職場体験などで実際に職場を見ることで、想像していた職業像と実態の違いが分かることもあり、進路選択に生かせると思う。

委員（C）

(1) 習熟度別授業は土曜補習のみの実施か。加配教員の配置はあるか。

→ 土曜補習だけでなく、普段の授業でも国語・数学・英語は加配教員を配置し、習熟度別授業・少人数授業を実施している。各学年とも選抜クラスを2クラス（2・3年は文系・理系にそれぞれ1クラス）編成し、学力に応じた授業を展開している。

- (2) 教員の資質向上は喫緊の課題であるが、教員の研究授業は年何回くらい実施しているか。中学校では年間の実施回数が決められている。
- 本校では特に実施回数は設けていないが、初任者研修、5年経験者研修、10年経験者研修などの研究授業がある。加えて、令和5年度から3年間は、県教育委員会主催の「令和の日本型学校教育推進支援プログラム」における研究校に指定され、5教科の各教科一人が研究推進委員として毎年公開研究授業を実施する。
- (3) 避難訓練についての説明があったが、原子力災害時における生徒の保護者への引き渡しはどのようになっているか。
- 保護者への緊急連絡（安心・安全メール、HPなど）により学校で保護者に直接引き渡しをするように計画している。
- (4) 多様性を尊重する観点などから今年度入学生から制服が変更されたとのことだが、女子のスラックス使用は何人くらいいるか。
- 10人以上は購入しているが、常時着用している生徒もいるし、そうでない生徒もいる。
- (5) 生徒支援の観点から生徒を育成することは大事である。1日の中で生徒が一番長く過ごす時間は授業だから、授業の中身を良くすること即ち教員の授業改善は極めて重要である。
- (6) 利他の精神の育成により、社会に対してどんなことで貢献できるかを生徒自身に考えさせること、当事者意識を育てることは大事であるが、学校はどこまで生徒・保護者に支援をすれば良いのだろうか。不便なことがかえって良いこともあるのではないかと思うこともある。

委員(D)

- (1) 本市青年会議所としての行事に対して多くの高校生に協力をもらっているが、現在、本県への海外留学生やALTの方々と高校生との交流事業（母国の伝統料理づくりに高校生が参加してもらうなど）等も検討している。国際的感覚の育成について、川内高校として何か取組をされているか。
- 本校生徒の海外派遣事業も検討したが、予算面から厳しい状況である。県教委主催の「グローバルクラスルーム事業」に昨年度参加し、台湾の高校生とズームでプレゼンテーションを行うなどの交流を行ったが、今年度は希望校が多く参加できなかった。今後も県や市の事業などを活用して交流を推進したい。
- (2) スクールバスの廃止による通学方法の変更が生徒募集に与える影響は分からないが、制服の変更など今が川内高校にとっての転換点であるように感じる。生徒・保護者。地域の方々から川内高校がどう映っているのか川内高校としても分析する必要がある。国際化に対応すること、多様性・人間性の育成は大事であるが、地域の中学生に川内高校をどうアピールするかを細やかに考えていく必要がある。

委員(E)

初めてこの会に参加して、勉強するつもりで先生方や他の委員お方のご意見を拝聴していた。二人の子どもでは教育課程も違い、学校側の社会の変化に合わせての様々な対応については感謝している。これからも子供たちのために熱心で厳しい学習指導をお願いしたい。